

# 日造協ニュース

2015.7月号  
通巻第496号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>  
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

- 2面 【学会の目・眼・芽】 造園学会関東支部の役割と活動  
(公社)日本造園学会 関東支部長、千葉大学大学院教授 古谷勝則
  - 2、3面 【特集】 平成27年度通常総会「情報提供」「決議」「表彰」「講演」
  - 2面 公園緑地・景観行政をめぐる最近の動向  
国土交通省公園緑地・景観課長 柳野良明
  - 3面 アクションプログラム推進等特別委員会 女性就業促進検討特別部会 中間報告  
女性就業促進検討特別部会長 酒井一江 (株)淡窓庵 代表取締役
  - 4面 【ふるさと自慢】 山梨県 果樹いっぱい山梨公園で60銘柄以上の試飲も  
堤 明伸 (株)津々美造園
- 第42回 全国造園デザインコンクール 応募要項を公表 多数の応募を!  
全国造園フェスティバル2015 10月をコア月に各地の緑化イベントなどに合わせて開催



総会の様子

## 平成27年度 通常総会を開催

### 26年度決算報告など承認、重点活動2015決議

日造協は6月23日(火)、東京都千代田区隼町のホテルグランドアーク半蔵門で、平成27年度通常総会を開催した。総会では議事に先立ち、国土交通省からの情報提供をはじめ、各種表彰(2面)を行った。議事では、「平成26年度決算報告」、「役員補欠選任」を承認。総会ではそのほか、報告事項と「重点活動2015決議」を採択した。総会後は、「女性就業促進検討特別部会中間報告アンケートの結果と今後の活動」をテーマに、日造協顧問で女性就業促進検討特別部会長の酒井一江氏(株)淡窓庵 代表取締役)が講演(3面)。また、意見交換会も多数の参加を得て開催した。

総会は冒頭、藤巻司郎会長があいさつ(別掲)の後、舟引敏明国土交通省大臣官房審議官からあいさつをいただき、次いで、柳野良明国土交通省公園緑地・景観課長から「公園緑地・景観行政をめぐる最近の動向」をテーマに、情報提供(2面)をいただいた。

その後、造園建設功労賞、業績表彰、勤続精励表彰、感謝状として、60名の方々に表彰、表彰状と記念品の授与を行った。

議事では、第1号議案「平成26年度決算報告について」は、事務局が報告を行い、北田功監事の監査報告の後、承認。第2号議案「役員補欠選任について」は、大八木勝彦理事の退任に伴い、有木久和(一財)建設業振興基金専務理事を新任理事に選任した。

総会ではそのほか、報告事項として、(1)平成26年度公益目的支出計画実施報告書について、(2)平成26年度事業報告について、(3)平成27年度事業計画について、(4)平成27年度収支予算について、事務局が概要を説明した。

活動報告事項として、技術委員会から鈴木義人安全部会長が、造園工事での労働災害防止、造園安全衛生管理の手引き、造園用シットハーネス開発、足場の設置が困難な場所での作業マニュアルの検討について説明。アクションプログラム推

進等特別委員会から持田正樹会員拡大プロジェクトチーム部会長が、昨年11月にスタートした同チームの構成や平成28～29年度を推進重点期間に、現在828社の正会員を900社に拡大するなど目標や基本方針、推進体制を紹介した。

次いで、事業委員会から正本大委員長が、造園フェスティバル推進部会、人材育成部会、要望・提言活動部会の概要を説明。人材育成は、全国造園デザインコンクール、地域リーダーズ活動の支援、造園CPDの単位取得促進、職長教育を実施しており、各活動の充実に向けた検討課題などについて紹介した。

決議事項では、「重点活動2015決議」(案)について、林輝幸副会長・総務委員長が説明。これまでのスローガン「造園力!いのちを支える造園技術で、持続可能な未来へ」を継続するとともに、3つの重点事項を採択した。

その後、今秋開催の全国都市緑化あいちフェアについて、大島嘉七愛知県支部長が説明。新入会員の出席5社を紹介し、壇上で日造協会員としての抱負などを語った。また、昨年初めて実施した賛助会員PRには6社が参加し、それぞれの事業、製品についてのPRを行った。

### 意見交換会も盛況

総会・講演会後は、多数の参加者を得て、意見交換会を開催した。冒頭、主催者を代表して、藤巻司郎会長があいさつ。ご来賓の今村雅弘衆議院議員、平口洋衆議院議員、舟引敏明国土交通省大臣官房審議官、鳥居敏男環境省自然環境局自然環境計画課長からご祝辞をいただいた。

舟引審議官は、「総会では国交省の取り組みも紹介されたので、違う話題にし

一般社団法人 日本造園建設業協会 会長  
藤巻 司郎



### 日造協の果たすべき役割を心にとどめ「会員拡大プロジェクト」に取り組む

皆様には、日頃から協会運営にご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、造園建設業界を取り巻く最近の状況を見ますと、労務費単価の改善や現場管理費率等の引上げ、ダンピング対策の強化などの措置が講じられるようになり、「アベノミクス」による公共事業費の維持・確保とも相まって、ようやく経営環境が改善しつつあると感じております。

これも、日造協として長年取り組んできた要望・提言活動が、一定の成果を得たものと受け止めております。

夢と希望が持てる魅力ある産業として発展を図り、「人と自然が共生するしなやかな社会の実現に寄与する」社会的使命を果たしていくためには、とりわけ、業界が抱える経営上の諸課題や新たな社会の要請に機動的に対応する事業活動の展開が鍵となります。

このため、全国組織である日造協の果たすべき役割をしっかりと心にとどめ、まずは日造協活動の強化に向けて、皆様のご協力を得ながら「会員拡大プロジェクト」に取り組んでまいります。

また、「担い手3法」に対応し、担い手の育成・確保の行動計画の立案、若手入職者の確保、技術者の育成、安全衛生の徹底などの諸課題に取り組んでまいります。

あわせて、今後の社会経済の動向を見据え、将来の活動領域の拡大などに取り組み、造園建設業の持続的な発展と安全で快適な緑豊かな美しい国土環境づくりに貢献していきたい。

本日は、平成26年度決算報告、役員補欠選任の審議、平成26年度事業報告や平成27年度事業計画等の報告、委員会の部会活動報告の後、「重点活動2015決議」を決定いただく。

それに先立ちまして、造園建設業界の発展に多大な功績をあげられた60名の方々に表彰させていただきます。

受賞されます皆様の永年にわたるご労苦とご功績に対しまして敬意を表しますとともに、今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。誠にありがとうございます。

最後に皆様方には、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(通常総会会長あいさつより抜粋)



今村 雅弘議員 平口 洋議員 舟引 敏明氏 鳥居 敏男氏 伊藤 英昌氏

たい。先週、秋田の「私立公園」の開園式に参加したが、大変な賑わいだった。都心でも丸の内や大手町の再開発では民間のオープンスペースが数多く誕生している。カルガモ親子も引越した再開発では新たに6,000㎡のオープンスペースが設けられると聞いている。さらに、シャッター商店街で、空き地を芝生化したところ、子どもたちがたくさん集まるようになったという。今後、各所で地域の再編が進められ、こうした民有地の事業は、公共造園と違った取り組みが求められることもあると思う。しかし、これまで培った技術やノウハウをぜひ活かして欲しい。国としては、新しい公共への支援を積極的に行っていく。それぞれの企業、地方の成果が、造園業、日本の元気につながる」と述べた。

鳥居課長は、「環境省は昨年12月から、「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトをスタートさせ、本日お越しの涌井先生にもアドバイザーとしてご参加いただき、さまざまな議論を踏まえてと

りまとめ案を公表し、公開シンポジウムなども経て、昨日、最後の勉強会を行い今月中に中間とりまとめを行うことになっている。自然の恵みを次代につなげる取り組みは、地域の活性化にも役立つ。東京湾を再生し、江戸前をオリンピックで東京にやってくる方々に味わってもらうことも考えられ、こうした環境を実現する社会の仕組みづくりを行いたいと考えており、日造協の皆様のご協力を今後ともお願いしたい」と述べた。

その後、伊藤英昌(一社)日本公園緑地協会会長が「造園にはさまざまな団体がある。個々にはなく連携していくことで、来年の今頃はもっとおいしく飲めるかもしれない」と、連携を呼び掛け、乾杯を発声、意見交換の場となった。

閉会にあたっては、和田新也副会長が、「本日は、新入会員の方々をはじめ、再び会員になられた方々のお顔も拝見でき、日造協は勢いを増してきた感がある。さらなる会員の増強につとめ、快適な環境の創造に努めたい」と述べ閉会した。

### 人事異動

国土交通省都市局関係 (7月1日付)  
街路交通施設課長補佐=辻淳一(公園緑地・景観課緑地環境室課長補佐)  
公園緑地・景観課緑地環境室課長補佐=樋口学(九州地方整備局建設部都市調整官)

# 公園緑地・景観行政をめぐる最近の動向

国土交通省公園緑地・景観課長 柳野良明氏

平成 27 年度通常総会「国土交通省からの情報提供」より



お配りした資料はかなり厚いが、短い時間の中、ポイントのみを紹介したい。

「国土のグランドデザイン 2050」は、国土交通省が昨年取りまとめ、コンパクト＋ネットワークの意義・必要性と多様性と連携による国土・地域づくりの2つを柱に、多様性：ダイバーシティ、連携：コネクティブシティ、災害への粘り強くしなやかな対応：レジリエンスの3つの理念で国土づくりを進めると発表した。

この関連が「都市再生特別措置法等の一部改正」で、地方都市の市街地が拡散し低密度になる中で、市町村が多極ネットワーク型コンパクトシティへの誘導、都市機能の立地、公共交通の充実に関する包括的なマスタープランを作成するとし、100以上の自治体で動き出している。

あわせて「地域再生法の一部改正案」は、国会で既に成立し、中山間地域等の人口減少に対応し、「小さな拠点（コンパクトビレッジ）」の形成を図るが、これらは人口減少、少子高齢化への対応だ。

## 都市公園行政について

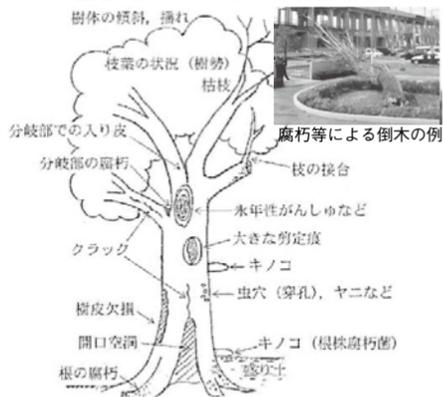
都市公園行政は、整備費が平成7年の1兆2,601億円をピークに減少し、平成25年の3,040億円で下げ止まり、その後は微増。都市公園のストック量は全国約10万箇所、約12万haで、国民一人当たり面積も10㎡を超えている。

トピックスになるが、東日本大震災関連で、「国営追悼・祈念施設（仮称）整備事業」で、岩手県陸前高田市と宮城県石巻市での施設設置を進めており、福島県においても県と調整中。「民族共生の象徴となる空間」は、北海道白老町に2020年度公開予定で整備を進めている。

「公共工事設計労務単価」は、ダンピング防止などの観点から、大幅な引き上げを行い、平成24年度と比べると2、3割上昇。これは法定福利費を適切に含めることが前提で、この取り組みは、就業環境の改善につながるものでもある。

「都市公園における老朽化対策」は、設置から30年を経過した公園が約3割、20年後に約6割に達することから、ストックマネジメント手法の確立を図るもので、国の技術的、予算的支援も実施する。「公園施設の安全点検に係る指針（案）」は、遊具やプール以外の公園施設について、植栽も含め安全点検の考え方をこの4月にまとめたものであり、公園全体で安全確保を図ることは待ったなしの状況になってきた。

「都市公園における官民連携の取り組み」は、民間の協力をさらに進めるもので、設置管理許可制度や指定管理者制度、



部位診断のチェックポイント  
出典「道路植栽の設計・施工・維持管理」（平成24年1月（一財）経済調査会）  
「公園施設の安全点検に係る指針（案）」のポイント④  
○「植栽」の安全点検を明記 植栽については、倒木や落枝等により重大な事故につながる恐れのある園路付近などについて重点的に点検する旨を明記するとともに、樹木の概観を確認する際のポイント等を参考資料として掲載

住民参加の公園づくり、公園を活用した子育て支援事業などを紹介している。

## 平成 27 年度都市公園緑地関係予算

平成 27 年度都市公園緑地関係予算は、前述の通り、減っていないことが重要で、安定した予算が、企業の皆さんの事業計画や職員の採用につながると思う。

ポイントは、前年度から逆転した国営公園の整備費と維持管理費で、国営公園でも維持管理が多い状況になっている。

主要事項をみると、ここでも人口減少・地域活性化と防災・減災対策で、「都市公園ストック再編事業の創設」により、自治体の都市公園の機能や配置の再編の支援などを行っている。

こうした社会変化に対応し、「新たな

時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」を実施中で、オープンスペースの再編や民が担う公園運営の推進を検討しており、ストックをいかに有効に利用するかだと思っている。

既に衆議院を通過し、参議院で審議中の案件には、都市公園内への保育所の設置なども含まれている。技術的基準は今後検討するが、社会のニーズに適切に対応していかなければならない。

このほか、国土強靱化に資する都市の防災・減災対策の推進も重要で、防災公園の整備なども進めなければならない。

以上がポイントであり、引き続き公園緑地行政について、皆さんの協力を得ながら積極的に取り組むとともに、予算の確保にも努めて参りたい。

# 重点活動 2015 決議 造園力！いのちを支える造園技術で、持続可能な未来へ

総会では、造園建設業の持続的な発展を支える造園技術で、持続可能な未来へ」と緑豊かな安全・快適で美しい持続可能な社会の実現に向け、「造園力！いのちが重点的に取り組むことを決議した。

## 一、次代の造園建設業を担う人材育成の強化を図ります。

- 若手入職者へのアピール：全国造園デザインコンクール
- 担い手の確保・育成：国家資格・日造協資格等の取得促進、女性の登用
- 経営者の育成：地域リーダーズ活動の支援

## 一、安心して働くことのできる環境の整備を図ります。

- 社会保険等の加入徹底：法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用
- 労働災害の防止：労働安全衛生管理の徹底
- 賃金水準の向上：技能労働者の労務単価の改善

## 一、造園力の発揮・拡大に取り組めます。

- 適切な施工の確保：施工体制台帳の作成・提出等の周知
- 防災力・災害対応力の向上：防災協定の締結促進
- 緑の再生等：東日本大震災復興事業への支援
- 要望・提言活動の展開：日造協資格制度の活用、造園発注の促進の要請
- 造園技術の向上：新たな課題の調査研究、造園技術情報の共有化
- 日造協組織等の強化：会員拡大プロジェクトの推進

# 協会表彰 60 名を讃える

平成 27 年度の協会表彰は、造園建設功労賞 16 名、業績表彰 30 名、勤続精励表彰 9 名、感謝状 5 名の合わせて 60 名の方々を表彰、藤巻会長が表彰状と記念品の授与を行った。



業績表彰 (30名)

総支部	支部	氏名	年齢	所属
北海道	北海道	四宮 繁	45	(株)四宮造園
〃	〃	廣正博之	47	(株)広正園
東北	岩手	佐々木清	65	(有)緑清苑
〃	山形	今井純太郎	62	(株)今井造園土木
関東・甲信	茨城	鈴木稔雄	60	鹿島庭園(株)
〃	〃	松山正寛	47	(株)タナカ築庭
〃	〃	埼玉 藤原英樹	45	埼玉グリーンサービス(株)
〃	〃	小林正史	57	(株)グリーンアート
〃	千葉	齋木弘志	59	(株)東松園
〃	〃	湯浅和利	58	植忠造園土木(株)
〃	〃	三栗野公代	65	(株)森田植物園
〃	東京	田丸敬三	45	東光園緑化(株)
〃	〃	生方幸寿	58	東急グリーンシステム(株)
〃	〃	松本 朗	54	(株)富士植木
〃	神奈川	藤田信一	57	(株)三橋緑化興業
〃	〃	山田裕之	51	坂ノ下グリーンメンテナンス
〃	山梨	斉藤正隆	48	(株)石和植木
〃	〃	辻 宏幸	45	辻緑化土木(株)
〃	長野	坂戸広三	57	(株)園建
北陸	新潟	野俣剛直	50	牛歩園緑化(株)
中部	愛知	筒井一義	67	(株)豊橋園芸ガーデン
〃	三重	伊藤 一	64	(株)千草園
近畿	滋賀	川下雅博	58	(株)川下造園
〃	〃	大阪 村島浩二	56	京阪園芸(株)
〃	〃	兵庫 山田俊光	47	(株)中西総合ガーデン
〃	〃	中島祥之	54	花佐造園(株)
四国	徳島	関 正義	61	マルセー緑化建設(有)
九州	長崎	馬渡光男	71	(株)島原緑地建設
〃	熊本	福山正親	51	(株)川上六花園
〃	宮崎	後藤克信	66	(株)後藤造園



造園建設功労賞 (16名)

総支部	支部	氏名	年齢	所属
北海道	北海道	小華和坦	67	(株)横山造園
東北	岩手	熊谷英典	51	(株)上の島
〃	宮城	大友宗一	72	(株)岩沼造園土木
関東・甲信	群馬	中村米男	73	前橋園芸(株)
〃	東京	伊藤幸男	57	(株)日比谷アメニス
〃	神奈川	岡田茂樹	67	湘南造園(株)
北陸	石川	後 秀夫	59	中部緑地(株)
中部	岐阜	日比真一	53	昭和造園土木(株)
近畿	福井	福田一範	56	(有)大村造園
〃	和歌山	吉田正造	67	吉田造園土木
中国	鳥取	小椋博文	67	大山緑化建設(株)
四国	愛媛	成瀬要三	67	成瀬緑化産業(株)
九州	福岡	執行英利	61	(株)執行茂寿園
〃	鹿児島	村上敦務	71	(株)光林緑化
本部	福島	櫻井貞夫	71	(株)井造園(株)
〃	鳥取	田中静雄	61	(株)田中造園土木



勤続精励表彰 (9名)

総支部	支部	氏名	年齢	所属
東北	秋田	根田 稔	44	(株)アーバン造園
関東・甲信	神奈川	橋本隆浩	54	(株)山口園芸
北陸	富山	田中英博	57	(株)飛鳥ガーデン
近畿	京都	野間 勇	47	(株)野間造園
〃	〃	大阪 住友達也	59	(株)昭和造園土木
中国	岡山	下境 明	46	(株)武田園
四国	香川	松村憲夫	60	(株)山地宝松園
九州	大分	星野正治	57	(株)豊樹園
〃	〃	宮崎 國部秀樹	64	(株)馬原造園建設



感謝状 (5名)

総支部	支部	氏名	所属
北陸	石川	伊藤むつみ	石川県支部事務局
中部	愛知	酒井圭子	愛知県支部事務局
近畿	福井	渡邊末美	福井県支部事務局
〃	〃	奈良 田中悦子	奈良県支部事務局
〃	〃	和歌山 上野善久	和歌山県支部事務局

学会の目・眼・芽 第68回

# 造園学会関東支部の役割と活動

(公社)日本造園学会 関東支部長、千葉大学大学院教授 古谷 勝則

創立 30 周年を迎えた関東支部が活性化するためには、産官学のメンバーがバランスよく居ることが必須である。現在の支部役員は、産業界 3 割、行政・独立行政法人等 2 割、大学 5 割となっている。学会の支部活動であれば、産官学のふれあいが進み、立場を越えた技術者同士の交流の場を提供することになる。

関東支部で最も大きな集まりは年に一回開催される支部大会である。平成 27 年度関東支部大会は 11 月 21 日に日比谷公園で開催する。ポスター発表などで、民間の工事事例や、自治体の実施している事業の成果発表ができる仕組みがある。この事例発表を活用して、どのような技術解決を図るべきかなど、産官学で意見交換することにより、造園の事業の品質が高まるだろう。

関東支部大会は、学生の参加が多く、ベテランの方の参加が少ない現状がある。造園の知恵を結集した活動にしているためには、ベテランの皆様の参加は不可欠である。日程を簡単に紹介すると、午前中に事例・研究報告会の口頭発表、お昼にポスター発表、午後は東京オリンピック関連のシンポ・成果発表、夜が交流会となっている。発表をされる方は、10月9日までに申し込みが必要である。支部大会に関する最新情報は、日本造園学会関東支部の HP と Facebook に随時掲載している。

2020 年に開催される、オリンピッ

ク・パラリンピックに併せて、さらに将来に向けて、緑の東京づくりを推進していくために、造園関係団体に広く働きかけ、任意団体

「TOKYO GREEN 2020 推進会議」を設立した。構成 9 団体は、関東支部の他に、(公社)都市緑化機構、(公社)園芸文化協会、(一財)日本造園修景協会、(一財)日本緑化センター、(一社)日本公園緑地協会、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(一社)ランドスケープアーキテクト連盟、NPO 法人屋上開発研究会)である。

造園遺産部会では、造園・ランドスケープ遺産の情報収集とインベントリーづくりの作業をおこなっている。現在、およそ 1,500 件の事例から、支部運営委員による選定作業を進めており、主要な遺産事例の現地調査も行った。今後約 300 件程度を選定する予定である。

造園学会関東支部は、年齢や職業を超えて、意見を交換できる場を提供することを目指しており、今年度から支部運営委員の公募制を導入している。関東支部の場を活用して、造園関係の課題や難問を議論し、ビジネスチャンスの芽をつかみとって頂ければと考えている。同業者同士交流だけではなく、行政や大学との交流から明日の仕事の芽を見つけていただきたい。



アクションプログラム推進等特別委員会

# 女性就業促進検討特別部会 中間報告

女性就業促進検討特別部会長 酒井一江氏 (株)淡窓庵 代表取締役

平成 27 年度通常総会講演会より



女性就業促進検討特別部会は、平成 26、27 年にアクションプログラム推進等特別委員会で創設が検討され、日造協ニュース (2014.8) に掲載されたが、当初関わることになるとは思っていなかった。創設検討の背景は、安倍総理の「女性が輝く社会」との発言を受け、内閣府や国土交通省が具体的な施策をつくりはじめたことにある。最近では日本建設業連合会が、女性就業者を「建設小町」と名づけ、環境整備のマニュアルなどをつくり、ゼネコンでは、「チームなでしこ」など、現場で働く女性たちのチームができています。

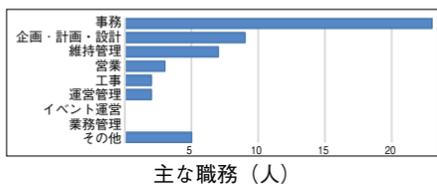
このような背景を受け、日造協では、現状把握のため、アクションプログラム推進等特別委員会が昨年 9 月にアンケートを実施し、結果、経営者の方からの回答 820 社中 35 社で回答率 4%、女性は 51 名からの回答を得た。日造協正会員の事業規模は、2 億円以下が 75% で約 670 社であるが、回答のあった 35 社中これに該当するのは 8 社で、標準的な会員の回答率は 1% ということになり、この回答をもって、日造協の現状を語ることはとてもできない。

何事にも基礎データを作らないと、全体像は見えず、何も見えていない状況で、活動しても成果は上がらない。こうした無駄がないようにするためのデータ作成であるため、今後もさまざまなアンケートが皆様のところに届くと思うが、きちんと回答いただけるよう、切にお願いしたい。

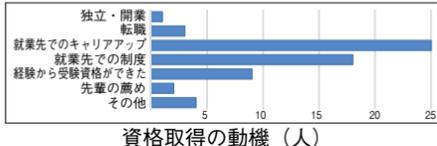
## アンケートにみる女性就業者の考え

女性 51 名の回答は、20 代から 50 代まで、学歴も造園に限らず広い分野で偏りがなく、その点からは、参考になるデータが得られた。会員の皆様には、女性就業者の考えを知っていただくために、本日は 36 の設問の中から、代表的な 7 項目についてご紹介させていただきたい。

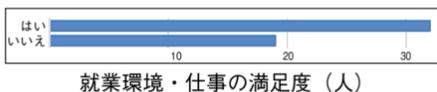
1. 「女性の主な職務」は、事務職が多くを占め、次いで、企画、計画設計で概ね 60%。現場は、維持管理、運営管理、工事で 20%。その他が 5 名おられ、専業ではなく、主に現場の仕事をオールマイティーにしている方だった。



2. 「資格取得の動機と利点」は、事業獲得に不可欠であり、会社の制度もあるようだ。女性の取得動機を聞くと、「就業先でのキャリアアップ」と答えた人が多く、仕事をするうえでも、昇給等でも意味があると答えているが、「キャリアアップにつながった」という答えではなかった。回答者たちは、有資格者が多く、中には一人で造園の専門的な資格を含めた 7 つを持っている営業職の人もおられた。



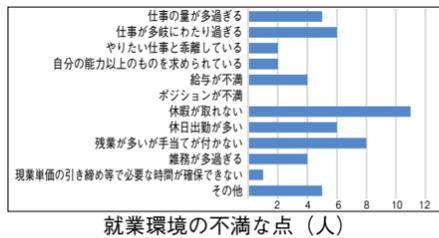
3. 「就業環境、仕事の満足度」は、「はい」が 63% とかなりの割合で満足している



が、「いいえ」と答えた人も約 4 割となっている。

4. 「就業環境の不満点」は、「休暇が普通にとれない」が最も多く、次いで「残業が多いが手当てが付かない」「休日出勤が多い」と、時間に関する課題が、浮き彫りになった。女性に限らず、残業ありきの建設業の現実があると感じた。

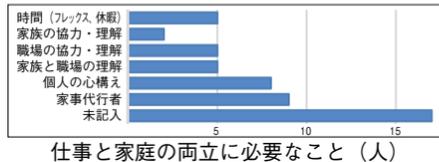
また、「やりたい仕事と乖離している」「現場にもっと出たい」「昇給のチャンスが欲しい」「代わられる人がいない」「体調が悪くても休めない」など、個人の頑張りに頼っている就業状況もみられ、仕事量は、企業の安定にもつながるので憚ることではないが、それが就業者のメリットにつながらず、就業者の負担で成り立つ業界では寂しい。働く形のあり方をもう少し考えなければならない。



5. 「仕事と家庭の両立のために必要なこと」は、何よりも「時間が必要」という意見が多かった。休暇や時短就業、フレックスタイムへの希望がある。

次いで、「家族の協力と理解」、「職場の協力と理解」も多く回答があった。

休暇については、法律があり、経営者の方はきちんとやっているとの答えだが、制度があっても職場の雰囲気や言い出しづらければ、機能しているとはいえず、少人数であれば、自分だけのために言えない状況も想定されるので、そういった点を配慮してあげて欲しい。



6. 「自己の技術向上のために」は、熱心さがよく現れており、専門の仕事に役立つ技術を身につけたいという意欲が感じられた。

主な業務	総数	職種	今後、身につけたいこと
事務	23	9	経理資格、造園の基本知識、情報交換、パソコンソフト
企画・計画・設計	10	7	提案力、表現力 (プレゼン)、広い知識
工事	2	2	新しい技法、古い技法、資格
営業	3	3	提案力、技術力、後進の指導力、仕事の確保
維持管理	6	6	メンテナンスの技術、提案力、コミュニケーション力
運営管理	2	1	プレゼン力
その他	5	3	新しい緑化技術、デザイン力、CAD の技術アップ

7. 「今後に望むこと」は、わが業界に多くの女性が関心を持ち、たくさん来ていただける状況を作るため、何が必要かということをお聞きした。年代別に求める内容も変わってくると思われたので、年齢別に 5 つのカテゴリーを設けて整理した。

年齢別にみると、それぞれの年代での課題もあるが、共通する課題もあった。「女性の感性、女性が活躍の仕事」という答がそれに当たるが、果たしてそういう特定できる仕事があるのかを今後整理していきたい。

そのほか、作業着、トイレの改善なども多くみられ、女性からは不十分との答えが多く、さらなる取り組みが必要だ。

また、一番重要なのは、事業体の取り組みとして、業種を知ってもらう、造園

の PR が必要との回答は、女性に限らず、広く業界にとって不可欠なことである。

以上の例を含め、資料の回答をみながら、各社で年齢などを参考に何が足りないかを再考していただきたい。

## 女性就業者に関する 3 つの課題

アンケートを踏まえ、課題を整理すると、まず、「業務について」は、代表者が女性に向く仕事は、事務等の内業と回答し、女性の就業状況と合致していたが、取得資格は、現場で役立つ資格が多く、フィールドワークへの希望も想定される。一方、設計に関する資格は必要ないと答えた代表者の回答もあった。日造協の協会案内には、企画、計画設計から現場まで、一連の流れで仕事ができると示されているのだから、現場がメインで、設計等の仕事が付属ではないだろう。これからの仕事は、企画から現場まで、上質の仕事をしていくことが業界として必要であり、男女を問わずだが、意欲のある人には、事務や設計の資格もしっかり取得し、個人の力を発揮できるように育てていただきたい。

そのほか、前述した女性の感性を活かした仕事は、性別でなく個人にもよっているとされているが、今後精査していく。

2 つ目の「就業環境について」は、トイレ等がまだ不十分で現場では特に配慮が求められる。また、指導や配慮の言葉がパワハラやセクハラになったりする状況は、業務の効率を下げ、互いに不幸なことなので、日頃の信頼関係が重要だ。

新人教育や継続的な学習環境については、1 社で取り組むのは難しいかもしれないので、技術委員会などでやることは協会としてメリットがあるように思う。また、私も入っている女性技術士の会には、コンピュータの専門家もたくさんいるので、連携した学習環境の構築も可能である。

3 つ目の「ワークライフバランスについて」は、男女にかかわらず、特に造園は、生活と仕事のバランスを大切にしなければならない職業である。造園を業とする方が造園空間で癒されるという経験をどれだけしているだろうか？ 経験のない人にそういう空間が作れる訳がないので、自らの生活を見直すことも大切だ。内業はパソコンがあれば、持ち帰ってできる仕事もある。成果を出せばいいのだから、人材配置や時間活用の工夫があってもいい。

## 初の部会を開催

部会委員は、各支部推薦の経営者、現場責任者、設計者、経理・事務が現職の 16 名で、6 月 16 日に部会を開催、13 名が参加した。

「所属先の女性就業者の状況」を聞くと、肯定的意見は「女性の方が採用が多い (優秀)」「現場をやりたい女性は覚悟、やる気がある」「仕事に対し積極的」、否定的意見は「1、2 年で退職するので男性のみ」「技術が伴わないが目立つ仕事をしたくない人はすぐやめ、継続しない」「就職のときはそつなく対応するが、仕事自体を理解していない。まだ男性の方が使える」との意見があった。

就業の課題では、「造園に女性の仕事はあるか」と聞いたところ、力仕事等の差はあるが、今の造園の仕事は多岐に及び、女性だからと限定される仕事はないとされ、その前に仕事量自体が不足、職人が不足していることが課題とされた。また、現場管理をされている方から、会社は理解していても現場の職人さんに、理解されない場合があるとの話があった。会社から事情を話しておくなどの配慮があると、働きやすいと思う。

指定管理者については、私は基本的に

良い制度だと思っているが、頑張るほど赤字になるという意見も出た。協会全体での取り組みでもあるが、指定管理者のあり方を部会でも検討したい。

## 部会のこれからの活動について

私の本業はコンサルだが、計画してハイ終わりではなく、活動的でトライする部会にしたい。また、楽しくないと継続しないので、お堅いものと半々でやっていきたい。作業着開発などは、楽しんでできることだと思う。ただし、単にかわいいのではなく、衛生的で洗濯してもすぐに乾くなどの機能性、組織の代紋を背負うので企業として恥ずかしくなく、造園をアピールできたり、個人が格好いいものであればいいと思う。

また、技術分野の女性はどこも少なく、相談するにも相手がない現状があるため、ネットワークづくりも行いたい。まずは部会ができたので、柔軟に意見交換を図りたいが、常に集まる訳にもいかない。インターネットによる意見交換ツールを早速事務局で設定をしていただきたい。これを活用していきたい。

また、造園の仕事は女性に無理などまだまだ思っている方もいるようなので、広報活動部会の方々にもご協力いただくなど、広報活動も積極的に行いたい。

仕事と時間、これは非常に重要なポイントになるが、仕事のせいで、結婚できない、子育てできない状況になって欲しくない。どういふ仕事のやり方があるかなどを部会で話し合っていきたい。

待機児童対策などから保育所は増えているが、外遊びができない状況も散見されるが、遊びの重要性の研究も大学等で進んでいる。国土交通省で、ストック活用事業が進められており、子どもは公園でしっかり遊び、指定管理者として、公園で働くお父さん、お母さんは公園で子どもを育てられる。そんなことはできない、甘いといわれるかもしれないがやってみないとわからない。実際にやってみると思う。

## よりよい造園業へ 3 つのお願い

最後に 3 つ皆さんをお願いしたい。1 つ目は、女性の姿がある協会にさせていただきたいということで、今日も女性の参加は少数だが、前の日造協理事は外部の私と須磨さんだけだった。今期は女性ゼロだと思ふ。地域リーダーズも、日造協ニュース 6 月号に、沖縄研修に 64 名参加と集合写真があったが、女性の姿はなかった。一方、この部会は女性ばかり。こうした場で女性について特別に話すのではなく、各部署に女性がいてそこで自然に意見が吸い上げられるような組織体にしていただきたい。

2 つ目は、仕事のあり方に関してだが、企業の個性を活かしたコンソーシアムとして仕事を遂行できないか。小さい企業が 1 社でいろいろやっていくことは大変なので、地域単位で協力できれば、企業を超えた出会いも想定でき、社員の子育て、病気や介護などのときにも相互に協力すれば女性就業支援に留まらないと思う。こういった組織ができれば建設業の中でも、非常にセールスポイントの高い業界になると思う。各社競争している中で、できるわけがないと思われるかもしれないが、業界内は切磋琢磨、競争はもっと違う相手と競争した方が造園にとってメリットがあると思う。

3 つ目は、カッコイイ男子を育てていただきたい。草食男子が多い社会なら、造園業界も比例するかもしれないが、元気な雄草系男子、モテる男を育てていただきたい。そういう男子がいる業界は女性にも魅力的だ。

果樹いっぱい  
公園で60銘柄以上の試飲も

山梨県といえば果樹と連想される方も多いと思います。統計ではブドウ・もも・スモモは全国一位の栽培面積と収穫量を誇っています。特にももの収穫量は31.4%とほぼ1/3が山梨産となります、そんな山梨県のPRをさせていただきます。

富士山の世界遺産の登録で山梨県を訪れる観光の方が多くなっているなか、先日南アルプス市にオープンした「完熟農園」にお邪魔しました。

伺ったのが土曜日ということもあり買い物客で混雑していました。店内には今が旬のサクランボをはじめ、地元産のフルーツを用いたジャムやジュース、ドレッシングと取材に行った私自身もびっくりする位のフルーツをアレンジした商品がありました。

また、ご家族でお出かけには、首都圏からアクセスの良い山梨ならではの楽しみ方での〇〇刈りがあります。季節によりイチゴ(1月~5月)、サクランボ(5月~6月)、

ブドウ(8月~10月)の摘み取りや食べ放題の農園もあり人気スポットとなっています。

最後に甲州ワインのご紹介をさせていただきます。

いくつかの山梨の醸造所では一升瓶ワインが販売されております。価格もリーズナブルで、私自身もお土産や贈答に晩酌にと利用しています。

また、ワインに関するイベントは多く開催されていますが、山梨県・東京都でそれぞれ開催される、山梨ヌーボー祭りは解禁日の11月3日に東京の日比谷公園で、その

後、山梨県の小瀬スポーツ公園で開催され、会場では、県内37社、60銘柄以上の新酒ワインの試飲と・販売が行われます。楽しみいっぱいの山梨県にお越し下さい。

堤 明伸(株)津々美造園

トマトジュース  
と桃ジュース



南アルプス市にオープンした「完熟農園」

サクランボをはじめ、地元産のフルーツを用いたジャムやジュース、ドレッシングなど、フルーツをアレンジした商品



## 第42回 全国造園デザインコンクール

## 応募要項を公表 多数の応募を!

「全国造園デザインコンクール」は、造園空間のデザインと製図技術の向上を目指し、造園学科等の高校生や大学生(短期大学生、専門学校生含む)、社会人を対象として、次世代を担う青年の造園に対する興味を醸成し、入職促進に寄与するよう、(一社)日本造園建設業協会が、毎年主催しているコンクールです。

その歴史は、昭和49年(1974年)、「関東高校生による造園デザインコンクール」として幕を開けました。

第1回は、文字どおり、関東地方の農業高等学校造園科などの生徒を対象に開催され、その後、対象とする地域は全国に、応募資格対象は、一般社会人や大学生に広がりました。

現在は文部科学省、国土交通省、NHK、全国農業高等学校校長協会、(公社)日本造園学会のご後援で、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会の共催を得て、コンクールは開催され続け、造園家を志す若者の育成に役立ってきています。

課題部門としては、「住宅庭園部門」個人住宅の庭園と「街区公園部門」街区公園、「商業施設部門」商業施設の屋外空間さらに「実習作品部門」作庭、駅前・街角などの広場、緑道、校庭緑化、花壇、植物を使用したモニュメント・ディスプレイ(生け花、フラワーアレンジメント

は除く)などが追加されることもあります。

応募者は課題のいずれかを選び(複数部門の選択・応募可)、その作品をA1判図面1枚(図面サイズや枚数の異なる場合あり)に収めて提出します。

応募作品は、造園関係の専門家や教育指導者、業界関係者から成る審査委員会による審査を受け、課題や応募資格対象毎に入選作品(入選、佳作)が選ばれます。中でも特に優れた作品には、国土交通大臣賞ほか各種特別賞が授与されています。

また、高等学校一校を選び、その指導を讃える文部科学大臣賞が贈られます。このほか、現在は、高校生作品を対象に、入選、佳作に準ずる賞として奨学賞が与えられています。

この全国造園デザインコンクールは、今年で第42回を迎えました。

今回は、前回の課題を微修正し、より取り組みやすくなるよう応募要項の作成を進めており、7月中旬に日造協ホームページへ掲載いたします。

コンクールは、一般、大学生、高校生の3部門、A住宅庭園、B街区公園、C商業施設、D実習作品の4つの課題で募集。平成27年1月6日から1月14日まで作品を受け付けます。多数の応募をお待ちしています。

## 事務局の動き

## [6月]

- 1(月)・技能五輪競技委員会
- ・造園・環境緑化産業振興会事務局会議
- ・まちづくり月間 ~6/30
- 4(月)・全国都市緑化よこはまフェア実行委員会設立会議・総会
- 8(月)・技術委員会(技術・技能部会)
- 10(月)・IFPRAジャパン理事会及び総会
- ・総務委員会(広報活動部会)
- 11(月)・技術委員会(安全部会)
- 16(月)・アクションプログラム推進等特別委員会(女性就業促進検討特別部会)
- 18(月)・技術委員会(調査・開発部会)
- 23(月)・運営会議
- ・通常総会、意見交換会
- 24(月)・地域リーダーズ勉強会

## [7月]

- 1(月)・資格制度委員会
- 3(月)・事業委員会(事業企画部会)
- ・事業委員会
- 6(月)・総務委員会(広報活動部会)
- 7(月)・技術委員会(技術企画部会)
- ・技術委員会
- 8(月)・日本造園企業年金基金制度運営検討委員会
- 10(月)・国土交通大臣表彰 表彰式
- 13(月)・アクションプログラム推進等特別委員会
- 14(月)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)
- 15(月)・事業委員会(造園フェスティバル部会)
- 19(日)・国際園芸「台中世界花博」アドバイザー派遣~21
- 21(月)・総務委員会(財政・運営部会)
- 23(月)・全国事務局連絡会議
- 24(月)・植栽基盤診断士認定委員会

- 28(月)・造園・環境緑化産業振興会事務局会議
- 30(月)・国交省と建専連との意見交換会
- 31(日)・技術委員会(技術・技能部会)

## 委員会等の活動

- 総務委員会(財政・運営部会)
- 平成26年度事業報告・決算報告、会費徴収規程等の改正、「会員拡大プロジェクト」の推進等について審議した。(5/20)
- 技術委員会(調査開発部会)
- 技術委員会へ報告する部会のH26活動結果とH27活動計画について確認した。「(仮称)みどりの発生材リサイクルのガイドライン」と「(仮称)公園・緑地樹木剪定ハンドブック」の原稿について最終確認を行った。低影響開発(LID)造園技術について今後の進め方について検討した。(6/18)
- 事業委員会(人材育成部会)
- スカイプを利用したインターネット会議(埼玉ー愛知ー大阪間)を開催し、今後の運営体制と平成27年度の実施計画について検討した。(6/1)
- 資格制度委員会
- 資格制度・デザインコンクール作品のパネル展示と書籍コーナーを設置し、来場者へ紹介した。(5/23、24)
- アクションプログラム推進等特別委員会(女性就業促進検討特別部会)
- アンケート結果報告と今後の活動方針を検討した。(6/16)

全国造園フェスティバル2015  
10月をコア月として各地の緑化イベントなどに合わせて開催

都市公園法施行50周年の記念事業として2006年度から始まった「全国造園フェスティバル」は、会員の皆様のご協力により全国各地で開催され、地域に根差した恒例行事となっています。

またテレビや新聞などに取り上げられるなど、市民の方々に造園のことを深く関心を持っていただける機会となっています。

今年度の「全国造園フェスティバル」は10月をコア月として開催します(各

地のイベントなどに合わせて開催も可)。

「花と緑で美しい日本を!」をテーマに、人々に花と緑の大切さを再認識していただき、日造協をはじめ、造園が地球環境に貢献していることをアピールする機会にしたいと考えております。

なお、造園フェスティバルの開催に関わることで、造園CPDの単位も取得することが可能です。

今年もより多くのイベント開催にご協力いただきますようお願いいたします。

編集後記 地球や人間を含めた生物に欠くべからざるもの、それは水と緑!使命感をもって造園領域を確保・拡大することが貢献出来る唯一の道!さあ立ち上げられ同志諸君!

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう!